

誇り・味方・居場所 —私の社会保障論



第12回

逆転の思想で、静かな革命

ジャンヌ・ダルクとガリオがリハビリテーション！

といっても、お二人が機能訓練を受けていたわけではありません。リハビリテーションという英語のもともとの意味は、「名誉回復」。ジャンヌ・ダルクは火あぶりにされてから25年後、ガリオは死から350年後、教会が冤罪を認めて罪を取り消し、名誉を回復したのです。

山口市の郊外、トタンぶきの手づくりの建物から始まった「夢のみずうみ村*」のデイサービスがリハビリテーションの静かな革命を起こしています。

※夢のみずうみ村

<http://www.yumenomizuumi.com/about/index.html>

「革命」の第1は、逆転の思想。1日の過ごし方は、スタッフではなく、ご本人が決めます。メニューは200種類もあり、なかでも人気はカジノ。オイチョコラブ、マージャン、ルーレット、トランプ…。勝って喜び、負けて悔しがり、心が動くと身体も動きます。



1日の過ごし方は、スタッフではなく、利用者ご本人が決めます。メニューは写真のように、実に多彩。200種類もあります。脳を活性化する麻雀、パチンコ、映画。手先を鍛えるパソコン、ちぎり絵、習字、デジカメ。身体を鍛える温水プール、「夢かなえ巡礼」、カラオケ。身体を癒すメニューには、あんま、入浴、うたた寝。

「村」の中だけで通じる通貨「ユーム」が掛け金です。

料理教室やパン作り、木工は、家族と食べたり、使ったり、プレゼントしたりと絆づくりに発展します。うたた寝、気分次第、何もしないというメニューまであります。

「革命」の第2は、「一見不親切」。昼食は、大鍋から自分で選んで盛りつけます。「バリアアリー」と称して、坂や階段をわざと設けています。自宅や街で遭遇するバリアーの克服方法をマ



マグネットのついたメニューカードを選んで写真のように自分の名前のところに貼っていきます。このときアタマを使いますし、背伸びしたり、屈んだり、からだのリハビリにつながります。左が藤原茂さん。

スターするための配慮です。じっと見守り、どうしてもできないことは素早く助け、ご本人の力を引き出すのがスタッフのワザです。

そして、仕上げが名誉回復。利用者を、人を助ける側にしてしまいます。見学者を案内する「水先案内人」、後輩の利用者の自宅をスタッフと訪ねて生活のコツを伝授する「宅配ビリテーション」。「師匠」という活動もあります。半身不随になったとき、「役にたたない人間になってしまった。死にたい」と繰り返してい

た人が今、「片手料理教室」の師匠。「こんなに楽しい人生が待っているなんて」と誇らしそうに輝いています。

ご紹介した楽しいノウハウは、いま全国にひろがりつつあります。でも、もっと大切なのは、旋風を巻き起こす「村」の創始者、カリスマ作業療法士の藤原茂さん*から聞き出した心意気の数々です。

「1人では何もできない。でも、まず、1人から始めなければ」「1人の情熱が他を巻き込む」「三日三晩、夢を語りつづけられるくらいの熱にうなされること」「制度があるからやろうはダメ。いいものは国が追っかけてくる」。

日本の社会保障をホンモノにするエッセンスが、この言葉に
つまっている、
と私は思うのです。

※創設者・藤原茂さんのブログ

<http://www.yumenomizuumi.com/blog/>

作業療法士

理学療法士及び作業療法士法にもとづく国家資格。「身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることを業とする」と定義づけられている。約4万人が登録。

日本では、医師の指示の「もとで」働くとされるが、医師と「ともに」働く職種とする国が多い

編集部註：本連載は、小社から刊行している『誇り・味方・居場所—私の社会保障論』(2016年3月10日発行)から選択して掲載しております。初出は毎日新聞朝刊に月1回掲載された「私の社会保障論」(2011年5月～2013年9月)です。したがって、記事中の人物・名称・活動・事物などで現在は亡くなっている方や変化している場合もありますのでご了解のほどお願い致します。



『誇り・味方・居場所—私の社会保障論』

大熊由紀子著

B6判変型 定価 1,600円+税

*単行本

<http://lifesupport-co.com/order33/books.html>

*電子版

<http://www.shinanobook.com/genre/book/3443>